

夢に向かってはばたけ千鳥

令和三年度卒業証書授与式

千鳥だより 第7号

三月一日(火)、令和三年度卒業証書授与式が本校体育館で厳粛に挙行され、卒業生一六七名が慣れ親しんだ学び舎を後にしました。

校長式辞では、卒業生の皆さんに期待することとして「一生学び続ける」こと、「人との繋がりを大切にすること」について述べられました。「グローバル化の更なる進展や、絶え間ない技術革新などに伴う変化の激しい時代の中で、社会に主体的に対応できる能力を身に付けるために絶えず学び続け、よりよい社会の形成者となることを願っています。」とはなむけの言葉がありました。送辞では、在校生代表が先輩方への感謝とともに「それぞれの道を歩む中で高い壁に阻まれ、困難や苦勞に見舞われることもあるかと思いますが、この『千鳥』で過ごした三年間を思い出してください。困難を乗り越える自信となるはずです。私たちはこの『千鳥』から先輩方を応援しています。」とエールを送りました。卒業生代表の答辞では、笠岡高校での三年間の高校生活を振り返りながら、「なぜ、今まで困難を乗り越えることができたのか、なぜ、未来への一歩を踏み出すことができるのか。支えてくれた人々への感謝を忘れずに一歩一歩進んでいきたいと思えます。この笠岡高校で学んだことや、数々の思い出は大きな助けとなるに違いありません。物事の本質を見極め、一歩ずつ前進できるように努力していきたいと思います。」と力強く述べました。会場全体が拍手で包まれる中、卒業生を送り出しました。



送辞 毛利 颯汰 (金光中出身)



答辞 塚村 叶芽 (鴨方中出身)



卒業証書授与 秋田 里奈 (鴨方中出身)



中学生みなさんへ、笠岡高校の卒業生からのメッセージ ~千鳥での3年間を振り返って~

笠岡高校には勉強面はもちろん、部活動にも積極的に取り組んでいる生徒がたくさんいます。私はハンドボール部に所属し、友達や先輩たちとの交流を深め、切磋琢磨しながら技術を向上し、信頼関係を築くことができました。部活動を通して、日頃の学校生活がより楽しく、充実したものになりました。また、千鳥祭では、新型コロナウイルスの影響もあり、いろいろな制限がありますが、発表や競技の内容を変更することにより、制限されている中でも楽しむことができました。各学年、各クラスの一人一人が役割を担い、団結して取り組むことで、クラスの絆もより深まりました。部活や行事も楽しめるのが千鳥の魅力です。



浦上 優希 (高屋中出身)

私は高校生活で特に部活動に力を入れました。私は吹奏楽部に所属していました。入部当初は、新しい集団の中で上手くやっていけるか不安でした。しかし、笠岡高校では、基本的に1年生と2年生で部活動をしていくため、先輩と後輩の距離が近く、新しい環境に慣れるまでのスピードは早かったです。部としての活動も活発で忙しかった分、部員同士の仲が深まりました。ボランティア活動や千鳥ラボなど、部活動以外の体験的な活動も盛んです。また、勉強との両立も頑張りました。第1志望校合格に向けて、3年生の時には、毎日友達と一緒に自習室で勉強しました。充実した3年間を送ることができ、笠岡高校に入学して良かったと思います。



岡野 睦美 (里庄中出身)